



わかとりクラブ鳥取

～とっとり県老連だより～

第28号

■会員数 42,351 人
 ■クラブ数 868クラブ
 平成24年4月現在
 ■社団法人鳥取県老人クラブ連合会
 〒689-0201
 住所 鳥取市伏野1729番地5
 県立福祉人材研修センター内
 TEL 0857-59-6351
 FAX 0857-59-6340
 ホームページ
<http://www.fuumon.sakura.ne.jp/>



琴浦町での「モデル事業」調印式
(山下町長=中央=ら)



小学生と芋苗の移植
(日吉津村老連)



八頭町の「サロン活動」(安井宿で)



『友愛と文化』 奉仕する団体に

社団法人鳥取県老人クラブ連合会
会長 今岡 祐一

この度本年度から、県連合会長に選任され、謹んでお受けしました。不束者でございますが、高澄子・前会長とご同様に、ご支援ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

現在、本連合会は「公益社団法人」に新生するため、手続きを進めております。

それは、会員個々が「楽しみあう」親睦団体から、「人助け」を優先する行動団体になることを意味します。

鳥取県の人口は58万人で、0歳から19歳までが10万人、20歳から59歳までが27万人、60歳以上の高齢者は21万人で、少子高齢化が歴然としております。

老連に、その知識と経験を生かし、高齢社会を主導してゆくことが求められました。

私達、4万2千人の会員は、期待に応えて、公益のため勤労を主とする友愛奉仕と、体力を伴わない知的な文化活動奉仕の二面作戦を考えております。如何でしょうか。

今こそ私達は知育・徳育・食育・愛育の改善運動に挑戦して、逆境に挫けぬ逞しさと無私共生の生活に徹する人づくりを生き甲斐に、喜びの人生を目指すことが、老連の拡充発展に寄与すると考えます。

心を豊かに日本の尊い伝統文化を次の世代に正しく伝え、世のため人のために、皆様方の真心を結集して、足元の地域活性化のお役に立とうではありませんか。

「はばたけ！わかとりクラブ鳥取」 萬歳！萬々歳！

特集

地域支え愛について

今こそ！老人クラブの

良さを地域に広めよう！

鳥取県福祉保健部長寿社会課

地域支え愛推進室長 金涌 文男

高齢化や核家族化の進展とともに近年の「所在不明の高齢者問題」の発生など、無縁社会という言葉葉が一般的に広まり、地域や家族の絆の希薄化が指摘されています。一方で、昨年の東日本大震災の発生、相次ぐ台風の風水害など災害が起こった際の安否確認、避難誘導などの声かけ、日ごろの見守りなど近所の役割が注目を浴び、一層地域での支え愛の大切さを実感されるようになっていきます。

こうした中、先般、県の事業棚卸しでは、現行の老人クラブにかかる補助事業について、「廃止」の提言がありました。これは、老人クラブそのものの否定ではありませんが、加入率が2割と低下傾向にあり、老人クラブの活動実態の把握と未加入者のニーズを踏まえて、ゼロベースの見直しをすべきという内容でした。

県としては、若手高齢者の加入が伸びない、後継の際にクラブが

廃止されるなどの課題に対して、効果的な手立てにつながってなかったことを指摘されたものと受け止めています。この提言については、今後、市町村や市町村老人クラブ連合会などの意見も伺いながら、老人クラブのあり方を検討してまいります。

これまで老人クラブは、仲間づくりや趣味のいきがいくくり、健康活動などの充実した活動を通して、日本人の寿命や健康寿命の延伸に大きく寄与してきたと考えています。こうした面を大切にしながら、昨今の地域における絆の重要性の再認識を受け、独居になっても、障がいがあっても、この地で住み続けたいという願いをかなえ、災害が起こっても誰もが安全に避難できるような地域をつくるためには、近所に根ざした県内老人クラブの約4万2千人のパワー、組織力は欠かせません。

県では、こうした気運を盛り上げ、老人クラブ活動を地域での支え愛に少しずつでもシフトしていただくために、今年度は琴浦町、伯耆町でモデル事業を実施していただいております。この取り組みを広く周知・拡大につなげ、県老

人クラブ連合会とも連携しながら、老人クラブの存在感を高め、加入促進につなげていきたいと考えております。

今だからこそ、「住みよいまちは自分たちでつくる」という思いと活動を通して、老人クラブの良さを地域に広めていきましょう！

モデル地区

地域支え愛事業の

取り組みについて

琴浦町高齢者クラブ連合会

会長 北野 昇

近年高齢者は毎年増えてきているのに、鳥取県下におきましても老人クラブ数は減少し、特にここ数年間に会員の減少は顕著に表れています。なぜ老人クラブがこのような経過をたどったのでしょうか：なぜ高齢者と言われる年代になった人が、老人福祉法で示された高齢者の組織である老人クラブに加入されなかったのか、何が原因だったのでしょうか。高齢者の割合が近年増えるにしたがって、いつまでも働かなくてはならない仕組みになってきた。これも大きな原因と思いますが、高齢者の趣味が多様化し、同じ目的や関心を

持つ者の同好会などの活動が盛んとなり、老人クラブもそのサークル活動の一つと考えられるようになったのではないかと思います。

この老人クラブは昭和38年施行の老人福祉法に基づき、福祉団体として位置付けられ、当時の日本の高齢化率は7%だったようです

県老連役員選任

任期満了に伴う県老連役員
の選任が行われました。

選任された役員は次のとおりです。

(任期2年：平成26年5月28日まで)

- ◆理事12名
 - 会長 今岡 祐一
 - 副会長 本部 享司
 - 副会長 岩本 勝明
 - 常務理事 門脇 眞澄
 - 理事 小林 裕幸
 - 理事 山崎 洋一
 - 理事 西村 英昌
 - 理事 竹中 一郎
 - 理事 相見 寿子
 - 理事 知久馬二三子
 - 理事 佐々木千代子
 - 理事 小矢野 馨
- ◆監事2名
 - 監事 日下部 武志
 - 監事 足立 豊

ので、行政サイドからは「高齢者は長い間地域社会のために働いて貢献してきた人、これからは、老人クラブに加入して親睦と健康づくりを」との意味に受け取られていたのではないかと……。

しかし昭和61年から全国運動として「健康づくり」に、「友愛」「奉仕」が加えられていましたが、活動に大きな変化はなく、毎年同じような活動内容で惰性的に五十年経過して、現在に至っているように思っています。

老人クラブ活動の目的には、自分の生活を豊かにする活動と、地域を豊かにする活動と二つあり、これが車の両輪として活動することとなつています。どちらかの車が小さければ前進することはできません。確かに現在までの活動は会員の「健康づくり」が事業の中心となつており、地域内における社会的活動が少なく、目に見える事業をしてこなかった。地域を豊かにする活動の車が小さかったのは確かです。これは、発足当初の親睦団体以来から現在の高齢化社会に時代が変わり、期待される活動団体への脱皮が出来なかつたと思つています。

このたび県長寿社会課よりの依頼で今年度事業に、「地域支え愛活動支援モデル事業」を実施する

こととなりました。

この事業は地域内のクラブ会員、非会員を問わず、高齢者同士の声掛け運動、独り暮らし高齢者への安否確認、友愛訪問活動、災害時の避難誘導など、長年培ったつながりを生かし、援助の必要な高齢者等を支える事業であり、地域の中の住民が「安心」「安全」に暮らしていきたいと思う中で、高齢者クラブがその一役を担うことが、クラブ活動の大きな前進ではないか。また会員自身の認知症・介護予防にも繋がり、身近に出来る分野の社会活動ではないか、としてこの事業に取り組んでいるところです。

県長寿社会課地域支え愛推進室の再三にわたるご指導本当にありがとうございます。



支え愛活動の取り組み

伯耆町老人クラブ連合会

会長 竹中 一郎

平成23年度末、県の地域支え愛推進室から伯耆町老連（以下、本会）へ「老人クラブの組織力を生かし、地域で平常時における高齢者をはじめ、支援を必要とする人たちの見守りや手助け、災害時に

おける要援護者の支援活動等をモデル事業として取り組んではどうか」という依頼がありました。

本会の単位クラブの中には、従来から独居や虚弱な高齢者宅への訪問や手伝い等の友愛活動に取り組んでいるところもありました。しかし、連合会としては、そうした事業は取り組んでおらず、この県からの誘いを機に、「本事業は、地域住民が安全で安心して暮らせる町づくりに役立つものであり、老人クラブに対する地域住民の認識が深まると共に、クラブ自体の活性化に繋がるものである」と役員一同確認し、平成24年度から本会の重要施策の一つとして着手したところでした。

取り組みの第一歩として、まずは本会会員を対象に「支え愛活動」について、どのような意識を抱いているのかアンケート調査を実施しました。全会員（1929人）を対象に実施し、12226人から回答を得て（回収率63%）、7月末に意見の集約を終えました。

調査結果の一部を紹介します。調査項目の「あなたは手伝つてもらいたいことがありますか」との設問に対して、「ある」と答えた方は30%。また「誰かを手助けできますか」との設問に対しては、「できる」との回答を83%頂きま

表彰受賞者

男女共同参画社会づくり功勞者内閣総理大臣表彰
相見寿子（鳥取市）

全老連創立50周年記念

厚生労働大臣表彰

育成功勞者表彰 高 澄子（鳥取市）

育成功勞者表彰 漆原勝時（八頭町）

優良単位クラブ表彰
浦安南万寿会（琴浦町）

優良老人クラブ連合会表彰
伯耆町老連（伯耆町）

全老連会長表彰

優良クラブ表彰
こしき友の会（伯耆町）

した。「手助けができる」という前向きな姿勢の会員がいることに意を強くしています。

しかし、助けを必要としている人の確認、支援の内容や対応の仕方、個人情報の問題、支援する側の高齢化の問題、クラブのない集落の問題等々、課題が山積みしています。何をすることも手探りの状態のスタートですが、関係者の皆さんの支援を頂きながら、今後の支え愛活動の基礎作りができればと思つていきます。

市町村の活動状況

子ども達との交流を大切に

鳥取市老連

鳥取市東郷むつみ会

会長 山根 博

わが地域も、過疎が、高齢化が、少子化が進み、子どもの声さえ寂しい地域となつてしまいました。そんな中で、私たち「むつみ会」は、まず健康で楽しく心豊かにを motto に仲間同士はもちろん、人との繋がりを大切にして活動をしています。特に保育園、小学校の子ども達との交流を大切にしており、今まで培ってきた知恵の一端でも教え伝えられたらと、芋の苗植えから収穫まで、「ふれあい教室」では、たけとんぼ・水鉄砲・たこづくり等を。また三世代交流では、ミニ門松づくり・鳥追い伝統継承・どろんこ大会等を行っています。学校での週3回の朝の読み聞かせも含めると、私たちはかなりの回数、学校に通っています。その時の私たちの顔といったら、頬が緩みっぱなしの優しいお爺さん、お婆さんの顔です。そして私たちは、毎回、子ども達からたくさんのお話をもらって帰ります。

こんな子ども達のために私たちは、防犯活動、交通安全パトロー

ルにも精を出します。この子ども達の笑顔を見るために。みんなが笑顔でいるために。地域のみんなが支え合つて生きていくことを実感する日々です。きょうも元気で、楽しい一日でありますように。

地域支え愛に主力

米子市老連

会長 今岡 祐一

米子市の地域支え愛の公共的部分の行事報告をいたします。

「県企画課より」(県議会会議長)

【北方領土返還要求県民大会】

会場鳥取市、米子から参加14名。

鳥取、倉吉、米子と会場輪番制。

「県人権局より」

【北朝鮮拉致救出国民のつどい】

7月、9月、会場は米子で開催。

被害者家族、米子2、伯耆町1、日南町1、計4家族。家庭訪問。



交通安全の街頭啓発活動

街頭署名活動。

「警察より」【交通安全運動】

春夏秋冬年4回、街頭啓発活動

【敬神】毎月、産土神社境内清掃

【崇祖】鳥取県護国神社参拝団。

県民全体の郷土のみたままつり。

夏季18名、冬季16名参加。

【自然食健康料理教室】年6回。

地産地消、生ゴミ出さぬ、手抜き

しない、食事作法、躰修練。

【縁結び交流広場】婚活推進

【中江藤樹学習会】年3回開催。

道義礼節都市米子をめざして。

相互支援体制づくり

倉吉市老連

西郷地区南長生会

会長 山口 文雄

奉仕活動等、会員ができるだけ参加しやすい体制づくりに、より魅力あるクラブへと取り組み、ひいてはこれが入会の動機になれば幸いと存じます。

取り敢えずは、いきいきサロンを立ち上げて、高齢者の引きこもり、孤立化防止を図り、皆がふれあう、心豊かな明るい人生を目指します。

少子高齢化の進行により高齢者人口が増加傾向の現状に鑑み、将来に向け高齢者同士が一層の絆を深め、相互支援体制の強化を図るべきと考えます。まずは体制作りの一環として若手委員の時代にマッチした感性、創造力の発揮による加入促進に期待します。また県老連が掲げている地域支え愛を行動指針とし、地域に密着した活動展開でクラブの存在価値を高めたものです。一番は会員の心身共に健やかな健康づくりを願い、各種シニア・スポーツへの参加、研修旅行、親睦会、学習会、世代交流、



保育園児とのちまき作り



食生活改善事業

雪かきなど友愛活動

境港市寿連

夕日ヶ丘一丁目すこやか会

会長 角 嘉明

私たちの町は約130世帯、会員数18人の新興住宅街で、特別単位クラブとして認定されています。

毎週水曜日を会の活動日と定め、雨の日でも午前9時に町内の集会所に集まり、雨以外の日は約2キロのコースをウォーキングの後、グラウンドゴルフとお茶会、雨の日は室内用ペタンクとお茶会で親睦を図っています。

年3回実施する市寿連の友愛訪問を通じ、独り暮らしの高齢者とお話をし、安否確認を重ねているうち、顔なじみとなつて訪問日以外の日でも声掛けや安否確認が行えるようになりました。



集合所のすぐ近くでグラウンドゴルフを楽しむ会員

また、自治会とも協力し合つて豪雪のときの安否確認、雪かき、医院・買い物等の送迎など、小さな町ならではの地域に密着した活動ができていますように感じています。

向こう三軒両隣の原点

岩美町老連

会長 日下部 武志

全国的に少子高齢化の進む中、本町においても例外ではなく、日頃子ども達の元気な声を聞くことがなくなつた。今こそ私達高齢者が、地域で何をすべきか知恵を出し合い、向こう三軒両隣の原点に返り、地域を支え守り続けていく時ではないかと考えます。

その取り組みについて現在推進している運動について具体的に挙げてみると

- 1 地域の子どもを中心に青少年との多世代交流
 - 2 自治会・町内会との連携の取り組み
 - 3 地域への奉仕活動や緊急時の対応等
 - 4 地域の伝統並びに芸能等の伝承活動
 - 5 地域で支え合うサロン活動の普及推進
 - 6 閉じこもり独居高齢者への声かけ運動
- 生きがい、健康づくり事業の推進

以上6点挙げましたが、日常生活の中での取り組みは、やはり「自分の身は自分で守ること」が基本ではないかと言うことを付け加えておきます。

サロンふれあい活動

八頭町老連

会長 山崎 洋一

農山村地域では若い世代が都市部に移り住み、独居や高齢者夫婦のみの世帯が増え続け、子どもの姿も見かけない地域が増えている。

過疎化の中で、住み慣れた地域で安心して暮らしたいという高齢者の思いを大切にしたい支え愛、ふれあいの活動が今後一層重要になってきているように思います。

現在は社協主催の「サロン活動」

「とんとんとん

からりの：「精神で

若桜町老連

会長 谷川 輝久

若桜町は高齢化率が約40%で少子高齢化の町です。当老人クラブ連合会は19クラブあり、会員は約九百名です。

私が子供の頃、口ずさんでいた「とんとんとんからり」の歌を今こそ皆が歌わなければ、と思うのですが、歌詞が分かりません。

がふれあい活動中心になつていますが、参加が比較的高齢の方に片寄つているので、もつと若者の会員でも都合がつく時に参加できるように体制が必要だと思ひます。

先日、地域防災訓練を行ったが、避難場所での人員確認の時、未避難者の家を自警団員が再確認に出かけていた。一刻を争う時、独居や足腰の弱い人の家には近所の人呼びかけを行い、一緒に、避難する事が大切ではないでしょうか。

近年、わが地区の七夕祭りは、地区の納涼祭で、老人クラブが中心となつて子ども達と一緒に、短冊や飾り物を大竹に飾り付けて子ども会の支え合いを行っている。まずはできることから支え合いを始めたいと考えている。

そこでインターネットで調べて見ると、詳しい情報が載つておりました。

昭和15年ごろ作られたNHK国民唱歌で、作詞は岡本一平(岡本太郎の実父)氏です。

早速歌詞をパソコンで作り、若桜町老人クラブ研修会で皆が歌い、各集落でも会合の前に歌つて頂くようお願いをしたところです。今こそ、この歌のように隣近所の助け合いが必要な時代であると考えます。

小学校児童と交流を通して

智頭町老連

山郷地区鶴寿会連合会

会長 大藤 光美

私の地区は町内最小で小学校児童20名未満という状態で、遂に今年4月1日から町内6校が統合されました。私が連合会のお世話をするようになった平成十二年以前から始った米作り体験学習は閉校まで続きました。

これがきっかけとなり児童との交流が進展し、特に昔の遊びでは自分で作った道具で遊ぶという、二重の楽しさを味わったと思います。

戦前はナイフ、切り出しは学用品で、刃物になれた私達は山で竹を伐り、鋸、鉋を器用に使用して遊び、道具を作って遊んだ話をする、子ども達は目を輝かせて聞かれています。水鉄砲、凧、すす玉鉄砲など作ったのですが、単元が一、二年生だったので、材料がある程度調整したもので臨んだのが残念でした。

作る喜び、楽しさはゲーム遊びになれ親しんだ子ども達に新鮮な感覚と自然に親しむ心、郷土愛の心を育むのに貢献出来たかと自画自賛です。

交通事故防止に寄与

湯梨浜町老連

会長 山下 宣昭

「ただいま」この声を聞くまで児童のいる家庭はなかなか落ちつく事が出来ない。ここ数年、異常事態が多発している。交通事故だ、マナーの悪い運転手が増えているからだ。我々高齢者は、行政関係、福祉関係、そして地域の方々にお世話になりながら、何も役立ったお返しをしていないのが現実です。そこで湯梨浜町老人クラブでは少しでも交通事故防止に寄与する事が出来ないか話し合い、子ども見守り隊を立ちあげ、専用のユニフォーム

地域支え愛へ向けて

三朝町老連

副会長 知久馬 二三子

私が所属する単位クラブ「湯の町老人クラブ」の紹介をします。男性13名、女性38名と小さな所帯ですが、楽しく和気あいあい活動しています。

湯の町老人クラブの重点目標

一、みんな健康な心と体をつくらう

二、在宅福祉を支える活動を推進しよう

三、地域ボランティア活動を推進しよう

ムを作りました。

最初は、秋の交通安全運動期間中を目的に取り組みます。この期間、朝にはPTAが交替で送りまします。しかし下校時には迎えがないのが現状です。その迎えを老人クラブで取り組みたいと思います。最初は、交通安全期間中ですが、なれて来たら年間を通してやりたいと思っています。

少しでも歩けば健康に役立ちますし、子どもたちの話を聞いてみると、我々高齢者にも非常に参考になる話があります。また歩く事、話す事で、ぼけ防止など目に見えない効果が出てくるのではないのでしょうか。



ちまきづくりの子どもたちと保護者ら

四、世代間交流活動を推進しよう

具体的な取り組みとして、4年

前から「フリーマーケット」を実施。地元の祭り「キュリー祭」のぎやかさを目的として、商店街の空き家を借用、祭りの前日と当日の2日間行っています。会員同士の交流、地域の人の話し合い、時には外国の方とも話をし、大変楽しい催しとなっています。

子ども会と「ちまきづくり」新たな取り組みとして、子ども会との共同事業で「ちまきづくり」を実施。以前から子ども会の役員さんと話していたことが実現しました。親子あわせて30名の参加がありました。私たちが小さい頃は「ちまきづくり」はあたりまえでしたが、今では親子とも知らない、初めてだと言う人ばかりでした。今後続けていくことを約束して、この日は終わりました。

「老」の字に誇り持とう

最後に老人クラブを「老」がつくことが嫌いだと言う人がたくさんいます。老のつく字を使った言葉は老師・老舗・老練・老成などたくさんあります。私たち老人クラブは「老」に学び、お互いに交流し話し合い、助け合う精神こそが仲間づくりであり、「老醜」「老化」を防ぐことになると思います。「老」という字に誇りを持ち、老人クラブの発展につなげられればと思います。

地域支え愛について 〜奉仕活動を通じて〜

北栄町老連

大谷老人クラブ

会長 西村 英昌

わがクラブは現在53名、平均年齢78歳の組織です。大栄西瓜に代表される農業どころで老人クラブといえども大切な働き手であり、男性会員はわずか10名です。しかし、雰囲気は活発で明るく、年3回の小旅行や運動会など参加率は極めて高い。特に奉仕活動で広大

健康を兼ねクリーンウォーク

南部町老連

東西町万寿連合会

会長 中本 俊夫

東西町万寿連合会は、米子ニュータウンの老人会です。46軒の団地に120名の会員で活動を行っている。いろいろなクラブで、それぞれ生活をエンジョイしています。

その中で少しでも地域の人々に役に立つ事は無いか、感謝の気持ちを込めて、私たちが出来る小さな親切運動は？と言う事で、平成9年からこの団地の内外を毎月第2日曜日の8時から1時間半ほど掛けて「空き缶ごみ拾い」の運動を続けています。団地の皆様から

な墓地の除草作業は真夏の酷暑の中で進められるが、早朝6時開始で約3時間たつぷり汗を流し、見違えるような姿に変貌していき、集落の方や遠隔地に転出されている方から感謝されている。老人力で少しでも地域を豊かにしなければならぬという会員の思いが結集されたものといえます。

他にも春の海岸清掃、秋の神社清掃などにも取り組み、こうした地域活動を通して自らの生きがいづくり、健康づくりにも大きく生かしているところです。



クリーンウォーク完走

感謝されています。

先輩から引き続いた行事もお陰様で今年15年目を迎えた。この度名前も新たに「クリーンウォーク」と現代風に改名し、気分も明るく、ウォーキングを兼ねて健康と出不

精を解消し、メンバー28名位で毎回ゴミ袋と火バサミを持って地域内を歩き回り、心地良い汗を流しています。

地域支え愛と福祉マップ

日吉津村老連

会長 高塚 勇

日吉津村老連としては、地域に親しんでいただくよう、種々の活動を行っている一部を紹介いたします。

(1) 小学校1・2年生との芋苗移植作業

5月8日支部長他会員有志で、畝作りマルチかけをして苗植えの準備をし、初めにみんなで挨拶、その後の移植作業の仕方を説明し、質問させながら周知の後、2年生から対面し3本ずつ移植、次は1年生に変わり指導した。



小学校での草取り作業

(2) 日吉津小学校環境教育(草取り作業指導)を5月から10月にかけて行っています。5月は18名、6月は15名の参加者で草取り作業を致しました。7月は雨で中止で、8月は夏休みでありませんでした。後、9月と10月に作業。

(3) 各支部の福祉マップ作成

日吉津村社協2階会議室で友愛部員と村福祉推進員、民生委員と各支部の福祉マップをつくり、声かけ運動等、今後の活動のあり方を話し合いました。



ベコニアの移植

(4) 校庭横舗道沿いにベコニアのプランター設置、女性部主催でベコニアのプランター移植管理作業を各支部3名参加、6支部18名で作業を5月10日ベコニアの苗を80個のプランターに240本移植して、その後管理、各支部持ち回りで1週間水掛け掃除を11月中旬まで行

います。また6月下旬には「とつとり花回廊」で花作り研修、校庭横花壇長さ80メートルの植栽サツキの剪定も行っています。毎年の事業で、美しい花を見ながら道路を通行される皆様の目を楽しませ、心を和ませると喜んでいただいています。



サツキの剪定

「支え、支えられて」

生きがいを！

大山町老連

会長 黒田 隆弘

人の一生は、支え、支えられて生きて行くものでしょう。特に高齢者は、支えられることが多くある。しかし、長い人生の中で養ってきた経験や知識は、人々を支えるために生かして行かなければなりません。

大山町老人クラブ連合会は、年

間を通して行っている事業や行事すべて、支え愛の気持ちであり、支え愛の活動です。

単位クラブの活動は、行政や社会福祉協議会、老人クラブ、地域が協力して「生きいきサロン」を行うなど、集落のお年寄りとお互い、語りあい、その中からお互いの生きがいにつながる活動をしています。

老人クラブの事業は仲間づくり、生きがいづくりで、高齢者を若い会員が支え、高齢者の知恵と知識で若手会員を助け育てる。このような真の支え愛活動を、今後も続けて行きたいと思っています。

サロンで仲間づくり

日野町老連

事務局 生田 京美

日野町の単位クラブ数は、7クラブになってしまいました。会員増強の促進方法は色々ありますが、サロン（集まり）を実施することを第一に考えて、その推進にあたっています。サロンの利点は、地域住民の仲間づくり、交流の場であること。特に高齢者にとって重要な健康維持の機能があること。情報提供の機能がたくさんあることが、目的、意義です。このことを理解してもらえれば、無理なく自然体で組織が形成されていくと考



休会クラブでの花見会サロン

目配り気配りで見守り

江府町老連

会長 川上 博久

江府町では、山あり、谷ありの中山間地域。高齢化率は40%近く占めており、独り暮らしの高齢者世帯や夫婦だけで暮らしているお年寄りは4割をこえ、超高齢化社会を迎えております。今こそ誰もが安心して暮らしていけるような地域の「見守り」が求められており、近所でお隣の様子がおかしいと思つ時や、蛍光灯の故障等、ちよつと見に行つてお手伝いするなど、あたり前のことを目配り気配りすることが、安心して地域で暮らすためには大切であり、この支え愛こそが地域福祉の原点だと思えます。地域の心のふれあいでは、町内

えます。写真の花見会サロンは、休会扱いのクラブに出向いて行つての様子です。
これがきっかけとなり、6月、8月と順調にサロンが実施されています。単位クラブ再開を目標に推進していきます。サロンの最終目的は、開催することではなく、サロン活動を通じて、地域の中に豊かな人間関係を築き、住民同士がお互いに支え合える関係を地域に作り出すことであると考えます。



には唯一のグループホーム「チロルの里」の施設があり、その入所者の中には私の子どもの頃から顔馴染みの方が多数。三年前に施設のそばに野菜畑を作り、毎年収穫時には入所者の方とのバーベキューによる納涼祭。入所者の方とは子どもの頃の出来事の話に花が咲き、笑みが続き心安らぐ一時です。
地域をこよなく愛し、住まれている皆さんが、心を寄せ合つて高齢期を支え合い、心ふれあい、温かい人間関係に気づいていく時、なくてはならない場所が老人クラブだと切に思います。

公益社団法人を目指す

県老人クラブ連合会事務局

〈老人クラブの目的と活動〉

老人クラブは昭和38年8月に施行された「老人福祉法」の第13条第2項に位置付けられ活動をしています。具体的には、仲間づくりを通して、生きがいと健康づくり、生活を豊かにする活動、そして、知識や経験を活かして、地域の団体や関係者と協働しながら地域を豊かにする社会活動に取り組んでいます。鳥取県老人クラブ連合会及び各市町村老人クラブ連合会及び単位老人クラブが行う日常の活動を支援して行くことを目的とした団体です。

また、鳥取県老人クラブ連合会は平成2年5月に「社団法人」に認定され、老人クラブの育成や指導者の養成及び研修、高齢者の社会参加活動の推進などの事業を実施しています。鳥取県老人クラブ連合会は県下の19市町村老人クラブ連合会で構成されており、各市町村老人クラブ連合会には、本年4月1日現在で868クラブ、42,351人の会員を擁する団体です。このような多数の会員を擁する団体は県内でも稀と言えるでしょう。

〈公益法人改革の背景〉

内閣府は平成18年6月の「公益法人制度改革関連3法」の成立を契機として、公益法人改革に乗り出しました。その背景には次のような事情がありました。公益法人の中には公益性が不明となっていたり、情報開示が不十分であったり、公益性そのものを失った法人が存続していたり、また、社会問題となるような不祥事を起こす法人が存在したことなどから、今回の公益法人制度改革に至ったものです。

〈今のままではいけないのか〉

社団法人鳥取県老人クラブ連合会は、平成25年11月末までに公益社団法人か一般社団法人に移行しなければ、解散することになります。

公益認定を受けるためには、公益目的事業比率が100分の50以上となるように公益目的事業を行わなければなりません。また、公益目的事業のために使用されてなく、今後も使用される見込みがない財産を遊休財産と呼んでいます。遊休財産額が1年間の公益目的事業費相当額を超えないこと、公益目的事業に係る収入がその費用を超えないこと、また、定款で定める鳥取県老人クラブ連合会の

事業が、たとえば「高齢者の福祉の増進を目的にする事業等など別に定められた公益に関する種々の事業」に該当しているかどうか、かつ、「不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与するもの」に該当しているかどうかを鳥取県公益認定等審議会が判断し、認定されることとなります。

〈公益認定を受けるとどうなるのか〉

公益法人に認定されると、公益法人や公益法人に寄付する個人・法人について、所得税、法人税など税制上の優遇措置が受けられることとなります。

その団体の社会的認知度や社会的信頼の向上などにつながります。が、反面、毎年、法人の情報開示や公益事業比率等が基準を満たしているかどうか行政庁への財務書類を提出義務が発生します。公益社団法人としての基準を満たさなくなつた場合には公益認定の取り消し処分が行われ、一般社団法人に変更されることとなります。

〈老人クラブの置かれている状況〉

鳥取県では今年度、事業棚卸し（仕分け）が行われ、老人クラブ補助金が外部評価者から廃止と判定されたところです。加入率の低

下が理由のひとつとして公表されていますが老人クラブ活動の具体的な活動内容が十分に周知されていないことも遠因ではないでしょう。

現在、外部評価者から廃止という提言が出され、老人クラブに係る補助事業が見直されているところですが、だれもが安心して暮らせる地域社会づくりを目指して行くためには各地域の老人クラブが果たす役割は不可欠だと考えています。

会員数が減少したといっても県下で4万人を超す、熱意をもって集まった多くの会員は、高齢化・長寿化の進んでいる本県では貴重な社会の担い手、支え手であることに変わりありません。老人クラブは個人の趣味活動をしている集団ではないかとのご意見も頂戴しました。しかし、老人クラブ全体としては、地域社会の要請に応じ、その使命を果たそうと努めています。

我々はこの機を好機と捉えて、透明性、公開性という視点に留意しつつ、わかとりクラブ鳥取の愛称の如く、地域が求める福祉や地域づくりの推進役として、地域の支え手として大きく飛翔しようではありませんか。

共感の広がりを

活動へ繋げて

女性リーダー研修会

鳥取県老連 女性委員会

委員長 相見 寿子

去る7月、3会場約400人、帰路に就く女性たちは、研修テーマ「女性が輝く老人クラブ活動」にふさわしく、一様に輝いていました。参加者に大きな感動と自信を与えた講演のエキスを紹介します。

(東部) 山田 晋講師



『人生のうま味は加齢とともに』
鳥取県図書館協会会長
世界遺産調査シニアポランティア

加齢は失うものばかりではない。人生の節々で出せる味、加齢とともに出せるうま味がある。自分流のうま味を出して活動を。

(中部) 中嶋邦彦講師



『最近の子どもから見た現代社会』
認定こども園
鳥取短期大学
附属幼稚園・保育園園長

自然にふれず、群れない子ども。自分の人生を生きることが、次の世代を育てること。自然を生活の中に取り入れた月見などの伝統行事を、子どもに伝えて欲しい。



女性リーダー研修会で熱心に聴講



(西部) 山根 浩講師

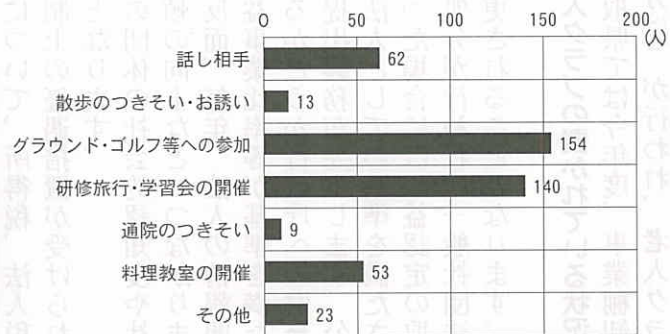
『心豊かに生きる』
大山町教育長
一貫した幼児教育を行うため、教育委員会が保育所を所管している

あいうえお人生で生きる
あ：ありがとう・あい・あいさつ
い：いのち・いきがい・いし
う：うまれる・うるおい・うれしい
え：えがお・えんむすび・えいき
お：おめでとう・おもいやり
× 悩む憎むのな・ぬねの人生



背中をのばしてちょっとひと息

1. (平成20年度地域課題) 80歳以上の高齢者の外出

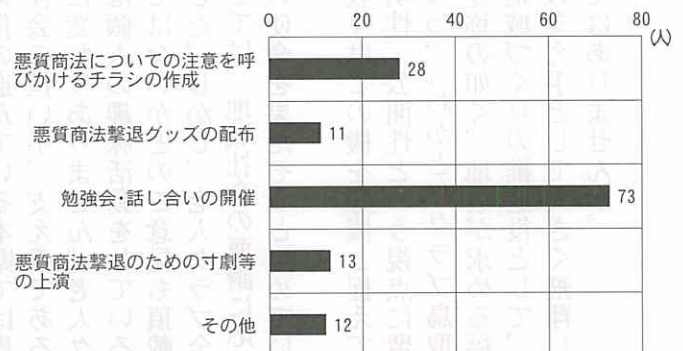


生活モニター結果を活かした
単位クラブ実践活動

3. (平成22年度地域課題) ひとり暮らしの生活を支える友愛活動



2. (平成21年度地域課題) 悪質商法・振り込め詐欺の被害防止



※1、2、3表は女性リーダー研修会参加者アンケートをまとめたものです。
※単位クラブの活動のほか、町老連や地区老連の活動、地域の公民館や社協・民生委員などと協力した取り組みも多くありました。

若手委員会の活動について

県老連 若手委員会
委員長 小矢野 馨

1 若手委員会組織化の推進
「設置済み市町村老連」
鳥取市、倉吉市、米子市、境港市、智頭町、伯耆町、岩美町

2 若手会員の加入促進
①お試し参加、体験参加の推進
②家族加入運動の推進
③加入し易いクラブ環境の推進

3 若手リーダー研修会の開催
23年度(3回目)は講師に日本ソシヤルワーカー協会、副会長大塚保信氏に「新しい老人クラブ」と題して講演をいただき、印象に残った部分を紹介しします。

①地域包括ケアシステムの一翼を担うのは老人クラブの役割。

②若さへの挑戦、団塊世代の仲間づくりが課題であり、カギになると結ばれました。

☆鳥取県は24年度、「老人クラブ支え愛活動推進モデル事業」を、老人クラブに託されました。

「老人クラブ支え愛」事業が地域に浸透し、老人クラブ活動の活性化に一躍を担うものと期待しています。

4 県老連の愛称について
老人クラブのイメージアップと会員の輪を広げ、クラブ活動の活性化につながる鳥取県らしさに、相応しい愛称が決定されました。

◎応募件数 198件
◎優秀作品 「わかとりクラブ鳥取」

◎推薦理由
わかとり国体の時のように若者の活力を結集し、みんなで楽しめるクラブ活動を目指します。

◎多くの皆様にご応募を頂きありがとうございます。関係者一同厚くお礼申し上げます。

5 今後の活動目標
◎若手委員会未設置町村支援
◎若手委員会未設置町村と交流会の開催

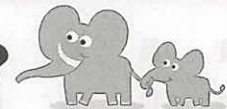
◎お試し参加、体験参加の推奨
◎加入し易いクラブ環境の推進

◎第4回若手リーダー研修会の開催

老人クラブ傷害保険のご案内

とても割安な掛金で充実補償

あなたにピッタリのタイプはどちら?



「ぞう」君です。

クラブの行事や活動によく出かけるという方におすすめ

1年間 500円 タイプ

1年間500円の掛金でクラブ活動中とその往復途上のケガを補償します。

さらに充実補償の

1年間 1,000円 タイプ
1年間 2,000円 タイプ
もあります。

◆補償内容	クラブ活動中のケガ
ケガによる死亡保険金額(死亡・後遺障害保険金額の全額)	50万円
ケガによる後遺障害保険金額	50万円
ケガによる入院保険金日額(注)	1,000円
ケガによる通院保険金日額	650円

24時間いつでも、どこでもケガが心配という方におすすめ

1年間 3,500円 タイプ

1年間3,500円の掛金で日常生活全般のケガを補償します。

さらに充実補償の

1年間 4,000円 タイプ
1年間 5,000円 タイプ
もあります。

◆補償内容	クラブ活動中のケガ	クラブ活動中以外のケガ
ケガによる死亡保険金額(死亡・後遺障害保険金額の全額)	150万円	100万円
ケガによる後遺障害保険金額	50万円	—
ケガによる入院保険金日額(注)	1,750円	750円
ケガによる通院保険金日額	1,150円	500円

(注)手術保険金のお支払い額は、手術の種類に応じて入院保険金日額の10倍、20倍または40倍となります。

全国老人クラブ連合会 保険係

通話料無料のフリーダイヤル
0120-000937 | 受付時間 9:30~17:30
 (土、日、祝祭日休)

(取扱代理店) 有限会社 シニアサービス社 電話番号 03-3597-8768
 (引受幹事保険会社) 東京海上日動火災保険株式会社
 (担当課) 医療・福祉法人部 法人第二課
 電話番号 03-3515-4144

●この広告は老人クラブ傷害保険(老人クラブ団体傷害保険特約付帯普通傷害保険・普通傷害保険)の概要についてご紹介したものです。詳細は、「老人クラブ傷害保険の手引き」にはさみ込まれている「重要事項説明」をお読みください。ご不明な点等がありましたら、取扱代理店、引受保険会社までお問い合わせください。全老連保険係ホームページ(<http://www.senior-ltd.com/>)でもご確認ください。

平成24年度 行事(実施済み含む)

月	日	行事予定	月	行事予定
10	4日(木)	○東部地区高齢者健康運動会(鳥取県民体育館)	5	○因伯シルバー大会(東郷湖羽合臨海公園)
	4日(木)	★全老連創立50周年記念全国老人クラブ大会(東京都:日比谷公会堂)	6	★第27回都道府県・指定都市老連中央セミナー(全社協)
	13~16日(火)	○第25回全国健康福祉宮城・仙台大会「地域文化伝承館」(ねんりんピック)(宮城・仙台)		○海岸クリーン作戦
	24日(水)	地区別研修会(米子コンベンションセンター)	7	女性リーダー研修会(倉吉市:倉吉未来中心)
	30日(火)	○交通安全講習会(東部:イナバ自動車学校)		○中国・四国ブロック・老人クラブリーダー研修会(徳島県:ルネッサンスリゾートナルト)
11	2日(金)	○中部地区高齢者健康運動会(倉吉体育文化会館)		女性リーダー研修会(鳥取市:さざんか会館)
	8~9日(金)	★第24回女性リーダーセミナー(全社協)		女性リーダー研修会(米子市:ふれあいの里)
	15日(木)	地区別研修会(県民ふれあい会館)	8	健康づくり・介護予防リーダー研修会(まなびタウンとうはく)
	16日(金)	○交通安全講習会(中部:鳥取中央自動車学校)	9	○鳥取県高齢者健康づくり推進大会(主催:鳥取県後期高齢者広域連合事務局)
	28日(水)	地区別研修会(倉吉体育文化会館)		○県民総合福祉大会(米子コンベンションセンター)
	29日(木)	○交通安全講習会(西部:山陰中央自動車学校)		○西部地区高齢者健康運動会(米子産産業体育館)
1	17~18日(金)	★第18回在宅福祉を支える友愛セミナー(全社協)		老人の日・老人週間(15日~21日)
	23~25日(金)	★第10期健康づくり中央セミナー(神奈川県:ロフォス湘南)		全国一斉「社会奉仕の日」
2	22日(金)	若手リーダー研修会(中部)		環境リサイクル推進事業(倉吉体育文化会館)

★全老連 ○関係機関

編集後記

平成24年度は、県老連にとつて高澄子会長から今岡祐一会長へバトンタッチされ、多くの役員(理事ら)も改選されて、冒頭の今岡会長の決意あいさつにもあるように「公益社団法人」への新生に取り組む年となっております。広報委員会は7月に第1回委員会を開き、本部委員長以下、大幅に新メンバーになり、その後の委員会で広報のあり方を討議してきました。題字についても『わかとりクラブ鳥取(とっとり県老連だより)』と改題いたしました。広報委員会の今後の活動にご期待下さい。

広報委員

委員長	本部 享司 (鳥取市)
副委員長	吉田 齊 (八頭町)
委員	西村 英昌 (北栄町)
委員	竹中 一郎 (伯耆町)
委員	知久馬二三子 (三朝町)
委員	安達 幸男 (南部町)
委員	相見 寿子 (鳥取市)

県老連副会長 東部地区代表 県老連理事 中部地区代表 西部地区代表

ソレイユ法務・FP事務所

(行政書士やがわ法務事務所)

行政書士
ファイナンシャル・プランナー (AFP・相続FP)
夫婦カウンセラー

谷川 裕美

YAGAWA Hiromi

〒680-0022 鳥取市西町五丁目160-2-2F
☎ 0857-30-5767 ☎ 0857-30-5768
✉ info@yagawa-office.com
🌐 http://yagawa-office.com

【主な取扱業務】

- 遺言・相続手続
- 遺産分割協議書の作成
- 成年後見 (ご高齢者支援)
- 離婚協議書の作成
- 許認可申請 (介護福祉事業、農地転用等)
- 法人設立・会社設立
- 補助金・融資支援

